

帯広の森屋内スピードスケート場

ネーミングライツ(命名権)資料

スケート競技の拠点として親しまれてきた帯広の森スピードスケート場は、リンクを凍らせるフロンガスが環境問題から使用出来なくなるとをきっかけに、世界でも主流となっている天候に左右されない屋内スピードスケート場として生まれ変わります。この施設は世界でもトップクラスの記録が期待できる高速リンクとして、国内はもとより世界のスピードスケート競技の拠点の一つとして位置付けられるものです。また、リンクに囲まれた広い中地などを利用したフットサルやテニス、ランニングなど多様なスポーツの場として地域住民の健康づくりに貢献するとともに、イベントやコンベンションなど、年間を通して多目的に活用できる快適な空間をも提供します。



屋内スピードスケート場

リンク : 屋内400mダブルトラック
(鉄骨造一部鉄筋コンクリート造 2階建)
冷媒 : アンモニア
利用期間 : 7月～3月(中地広場は通年)
想定利用者 : 220,000人
付属施設 : トレーニング室、ランニング走路、
中地広場(フットサル3面又はテニスコート6面)
総事業費 : 60億
完成 : H21.8月末供用開始予定

良質なスポーツ環境

帯広市の西部に位置する「帯広の森運動施設」は、市街地近郊に80haの敷地を有し、スピードスケート場のほか、第2種公認を受けた陸上競技場、50mの室内プール、天然芝の球技場など、競技力の向上を図るための、さまざまなトレーニング環境に対応することが出来ます。



大会の予定・実績

■ 大会開催予定(平成21年度以降)

- ・世界スプリントスピードスケート選手権大会
- ・世界スピードスケート選手権大会アジア地区予選
- ・ワールドカップスピードスケート競技会
- ・全日本スピードスケート選手権大会
- ・全日本ジュニアスピードスケート選手権大会
- ・全国小学生スピード大会
- ・北海道高校スケート選手権大会
- ・北海道中学スケート選手権大会
(現時点での想定であり、今後更に増える予定。)

■ 大会実績(帯広の森スピードスケート場)

- ・世界ジュニアスケート選手権大会(H2)
- ・ワールドカップ大会(H6)
- ・アジアスピードスケートカントリーマッチ国際競技大会(H15)
- ・国民体育大会冬季大会(H14/過去4回開催)
(スピードスケート・アイスホッケー・フィギュア 計 延55,000人)
- ・日本学生氷上競技選手権大会(H17/過去4回開催)
(スピードスケート・アイスホッケー・フィギュア 計 延20,000人)
- ・全日本スピードスケート選手権大会(S62)
- ・全日本スプリントスピードスケート選手権大会(H7)
- ・全国高等学校スケート競技大会(H14/過去4回開催)

ネーミングライツ

募集概要

<ネーミングライツの内容>

正式名「帯広の森屋内スピードスケート場」は変更しませんが「施設の名称(愛称)」として、企業名又は商品名(ブランド名)を付けることができます。名称は施設の設置目的にふさわしいものとし、地域名「帯広」「とちかち」を加えることを条件とします。なお、契約期間内の名称(愛称)変更はできません。

(例: とちかち000オーバル・000アイスリンクとちかち など。)

<希望契約条件>

契約期間 5年 程度
契約金額 年額 1000万円以上
(消費税及び地方消費税を含む。)

<広告効果>

国内で2番目となる帯広市の屋内スピードスケート場は完成後数多くの大会を予定しており、その中でも国際大会や全日本大会などは、中継やニュースなどでのTV放映を始め、海外からも多くのマスコミが訪れ注目されます。

<スケートのメッカ帯広・とちかち>

オリンピック金メダリスト、清水宏保選手を始め、これまで数多くのオリンピック選手を輩出している「帯広・とちかち」は、現在でも国内ジュニア選手の8割を超える競技人口を誇る「スピードスケートのメッカ」です。私たちは、こういった環境をもとに子供たちに「夢と希望」を与え、世界にはばたく人材育成に取り組んでいます。

<社会(地域)貢献>

スケートなどの冬季スポーツ競技は、「北海道・とちかち」から数多くの世界トップクラスの選手が生まれ育ち、日本を代表して活躍しています。これらの選手を育成する、施設環境を整えるといった地域密着型の企業協賛(サポート)は、広告効果のみならず社会(地域)貢献の観点から、幅広く人々から認められ、受け入れられるものです。

